

⑫ 公開特許公報(A)

平2-273200

⑬ Int.Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)11月7日

C 12 Q 1/42
1/68
G 01 N 33/532
33/536

A 6807-4B
B 6807-4B
C 7906-2G
7906-2G

審査請求 未請求 請求項の数 12 (全8頁)

⑮ 発明の名称 化学発光の測定方法

⑯ 特 願 平1-184432

⑰ 出 願 平1(1989)7月19日

優先権主張 ⑱ 昭63(1988)7月19日 ⑲ 日本(JP) ⑳ 特願 昭63-178194

㉑ 発 明 者 岡 田 政 久 東京都新宿区下落合4丁目6番7号 富士レビオ株式会社
内
㉒ 発 明 者 芦 原 義 弘 東京都新宿区下落合4丁目6番7号 富士レビオ株式会社
内
㉓ 発 明 者 二 宮 忠 司 東京都新宿区下落合4丁目6番7号 富士レビオ株式会社
内
㉔ 発 明 者 矢 野 朗 東京都新宿区下落合4丁目6番7号 富士レビオ株式会社
内
㉕ 出 願 人 富士レビオ株式会社 東京都新宿区下落合4丁目6番7号

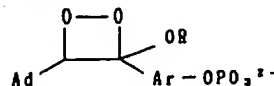
明 細 書

1. 発明の名称

化学発光の測定方法

2. 特許請求の範囲

(1) 固相を用いる化学発光の測定方法において、
酵素として酸又はアルカリホスファターゼ及び基
質として一般式



で表されるジオキセタン誘導体を用い、pH 4 ~ pH
10.5で酵素反応させた後、その固相のみをアル
カリ条件で発光反応させる該測定方法(式中、Ad
はアダマンチル基、Rは低級アルキル基であり、
Arは芳香族基である。)

(2) 化学発光測定法を酵素免疫測定法に用いた、
特許請求の範囲第(1)項に記載の方法。

(3) 化学発光測定法をポリヌクレオチド測定法
に用いた、特許請求の範囲第(1)項に記載の方法。

(4) 酵素反応を停止剤を添加し、反応を停止さ
せた後にアルカリにおいて発光反応を行う、特許

請求の範囲第(1)、(2)又は(3)項に記載の方法。

(5) 停止剤が酵素阻害剤又は酸である、特許請
求の範囲第(4)項に記載の方法。

(6) アルカリで反応を行う際にエンハンサーを
共存させる、特許請求の範囲第(1)、(2)又は(3)項に
記載の方法。

(7) エンハンサーがタンパク、ポリアルキル4
級アミン又は蛍光剤である、特許請求の範囲第(6)
項に記載の方法。

(8) タンパクが BSA、HSA、ヒト免疫グロブリン
又は卵白アルブミンである、特許請求の範囲第
(7)項に記載の方法。

(9) 蛍光剤がフルオレッセイン、シス-ジクロ
ロビス(2, 2'-ビビリジン)ルテニウム(II)
ハイドレート又は4-フルオロ-7-ニトロベン
ゾフラザン、7-フルオロ-4-ニトロベンゾキ
サジアゾールとアミン、アミノ酸、ペプチド若し
くは蛋白質との結合物又はその誘導体である、特
許請求の範囲第(7)項に記載の方法。

⑯ 固相発光を有機溶媒中で行なう特許請求の